

備前市施策評価シート

(平成17年度事業)

施策名 (小項目)	商業	コード 04-02-02	担当課 電話	商工観光課 64-1832
--------------	----	-----------------	-----------	------------------

備前市総合計画の内容から記載する

施策の体系	大項目(基本目標) 中項目(基本施策)	おもてなしの心とたくましさのあるまちづくり 企業と創造が支えるまちづくり
① 施策の対象と目的 (誰のために、何のために)	商業の活性化を図ることにより、東備地域の拠点都市としての発展を図り、市民生活を豊かにしていくことを目的とする。	
② 市民ニーズ (反応、問合せ等)	商業の発展は市民が期待しているところであり、大型店や商店街などの発展を望む声が多い。	
③ 現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	顧客ニーズの多様化や後継者不足、さらには郊外型大型店の進出による商業域の分散や競争の激化が大きな要因と考えられます。加えて、消費者の自家用車利用が定着したため、駐車場不足とアクセス道路の円滑性に欠ける従来型の商店街は、来客頻度が低下しており、これが商店街組織活動の低下につながっています。また、地域の商店街は衰退が著しく、閉店や空き店舗が目立ち地域社会の形成にも悪影響を及ぼしています。	
④ 施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> <li>魅力的な商店街の創出</li> <li>商店の体質の強化</li> <li>.</li> <li>.</li> <li>.</li> <li>.</li> </ul>	

⑤ 施策成果指標の検討・設定(基本目標・基本施策・施策意図から検討する)

意図・推進内容のキーワード	考えられる施策成果指標名	順位
魅力的な商店街の創出	商業団体等補助金交付団体数	1
商店の体質強化	経営相談回数	2

施策に対する 成果指標名	単位	評価年度 H17	目標値		ベンチ マーク	指標の説明
			H23	H28		
1 商業団体等補助金交付団体数	目標	件	7.0		10	補助している団体と協力し、商業振興に努めている
	実績	件	7.0			
	達成率	%	100.0			
参考1 経営相談回数	目標	回	6,000.0		6,000	会議所、商工会で受けた回数
	実績	回	5,670.0			
	達成率	%	94.5			
参考2	目標	%				
	実績	%				
	達成率	%	#DIV/0!			
参考3	目標					
	実績					
	達成率	%	#DIV/0!			

市民意識 調査結果	施策名	調査年度	H18	H19	H20	H21	H22	
	商業	重要だと思っている市民の割合	%	16.3				
		満足している市民の割合	%	4.3				

⑥ 施策構成事務事業の評価

担当課長評価

施策を構成する事務事業名 ( )はその人件費(単位:千円)	事務事業 評価結果 A~E (高~低)	細事業一覧表	直接事業費(単位:千円)		優先 順位 (A~C)
			17年度 事業費		
1 商業振興事業 (4,158)	C	六古窯サミット事業	448		B
		岡山県都市商業ゼミナール負担金	86		C
		伝統的工芸品産業振興協会会費	50		C
		岡山県経済交流協会会費	50		C
		商業振興対策補助事業	0		C
2 地域振興活性化事業(備前) (6,993)	B	備前まつり事業	3,500		A
		ひなせ港祭り事業	3,500		A
		まほろばウォーク事業	2,098		A
		海上綱引き大会事業	699		B
		カップリングパーティー事業	256		B
		備前鯖祭補助事業	4,400		A
		サマーフェスティバル補助事業	1,215		C
		地域まつり補助事業	840		C
3 地域振興活性化事業(日生) (1,998)	C	シーファンタジーイルミネーション業務	1,025		B
		ぼんぼり取付業務	420		B
4 商業団体支援事業 (2,491)	C	備前商工会議所補助事業	11,858		A
		商工会補助事業	20,731		A
		備前焼陶友会支援事業	405		B

この施策に要した費用(人件費込、単位:千円)

H17  
67,221

⑦ ⑥以外で、目標達成に必要な新規事業及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	その説明
商工観光課	商工会議所・商工会等関係団体と連携を 図り、諸施策を検討する	関係団体との情報交換が重要(ニーズの把握)
商工観光課	アルファビゼンの再建築	商店街の振興のキーとなる

⑧ 施策の評価

5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い

項目	一次評価		二次評価	
	評価	判断理由	評価	判断理由
1 目的達成度	3	成果指標では判断が難しい	3	同左
2 事業構成の適当性	3	商業振興事業の充実を図り、今後も継続する	3	事業の再考が必要である
3 施策の有効性	2	商店街の活性化を図るため、空き店舗を活用することが必要である。	2	同左
今後の展開・ 協働の可能性・ 事業の見直し等 の担当への指示		事業効果の判断は難しいが、今後も事務事業の見直しを行い、継続実施する。		同種のイベントを統合し、経費を節減する必要がある
担当部長コメント	商工会議所や商工会等関係団体と連携を密にして、活気と明るさの見える事業を検討したい。また、アルファビゼンについては、1日も早く結論を出す必要がある。			